



THINK SAFETY

MET 光ガイドカテーテルシステム

Supporting placement at the bedside

- 小型・軽量のため、ベッドサイドで操作が簡便に行えます*^{1,3}
- 光スタイレットは、同一患者のみにくり返し使用可能です*²
- 経鼻栄養チューブ挿入の際、位置確認と同時にモニター動画を記録し、任意のタイミングで静止画を記録として残せます。
- 本システムによる位置確認では、レントゲンを使用しないので患者・医療従事者へのX線による被爆はありません*³

*1: 併用できる経鼻栄養チューブには制限があります。

*2: 光スタイレットは同一患者に対してのみ270回使用可能です。

*3: 本製品だけでなく、別の確認方法との併用も推奨いたします。

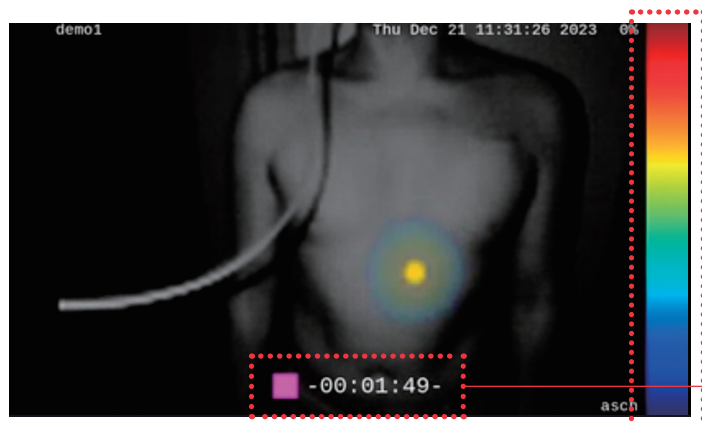


MET 光ガイドカテーテルシステム
専用ページはコチラ

システムの原理

- 体内から発光されるLED (850nm) の発光タイミングと本体背面カメラのCMOSセンサによる受光タイミングを同期させバンドパスフィルタで850nmの光のみを受光させます。
- LEDの発光を受光するだけでは身体の輪郭は識別できないため、「体内のLEDの発光・受光→カメラの赤外線フラッシュによる反射光(身体の輪郭)の受光」を繰り返し先端LED発光画像と赤外線フラッシュによる患者の輪郭画像を重ね合わせることで、光スタイレットが挿入された経鼻栄養チューブの留置を非接触で素早く確認することができます。

表示例



被験者：40代男性、BMI24.8、本品を使用して12Fr ニュー エンテラル フィーディング チューブを胃内に留置したときの画像

受光強度のゲージ (赤：強⇄青：弱)

録画時間 (点灯ボタンを押すと自動的に録画開始)

システム構成

● 本体



撮影スイッチ

点灯スイッチ

電源スイッチ

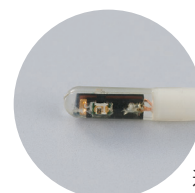
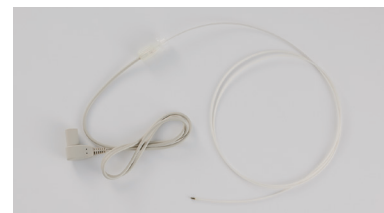
- 本体
- SDカード
- 単三ニッケル水素電池
- 単三ニッケル水素電池充電器

● 本体背面



カメラ受光部

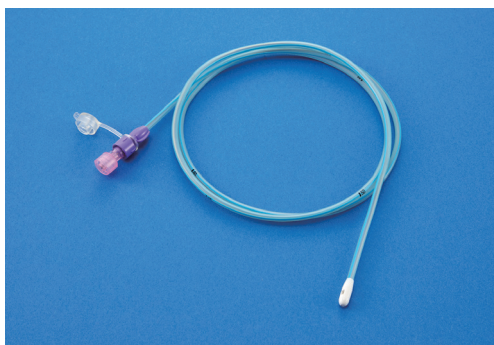
● 光スタイレット



近赤外LED

ニュー エンテラル フィーディング チューブ

- 標準粘度栄養剤から高粘度栄養剤まで様々な栄養剤投与が可能です。
- 無可塑剤ポリ塩化ビニル製のニュー エンテラル フィーディング チューブは、先端の錘とスタイレットでスムーズな挿入を実現します。
- 体内留置されるチューブは可塑剤を含まない無可塑ポリ塩化ビニルの材質で、留置中に硬くなりにくいです。
- チューブ内のスタイレットと先端の錘によりスムーズな挿入をサポートします。



本体画面に表示されている画像は実際の使用時のものです。
その他の構成はイメージですので、実際とは異なる場合があります。

医療事故の再発防止に向けた提言（第6号）*

栄養剤投与目的に行われた胃管挿入に係る死亡事例の分析

【胃管挿入のリスク】

提言1

胃管挿入において、嚥下障害、意思疎通困難、身体変形、挿入困難歴などがある患者は誤挿入のリスクが高いことを認識する。

【胃管挿入時の位置確認】

提言3

気泡音の聴取は胃内に挿入されていることを確認する確実な方法ではない。胃管挿入時の位置確認は、X線やpH測定を含めた複数の方法で行う。特にスタイレット付きの胃管を使用するなど穿孔リスクの高い手技を行った場合は、X線造影で胃管の先端付近を確認することが望ましい。

【水の投与以降の観察】

提言5

投与開始以降は誤挿入を早期発見するため、頻呼吸・咳嗽など呼吸状態の変化、分泌物の増加、呼吸音の変化、SpO₂低下などを観察する。特に誤挿入のリスクが高い患者はSpO₂モニタリングを行うことが望ましい。

【胃管挿入手技】

提言2

誤挿入のリスクが高い患者や挿入に難渋する患者では、可能な限りX線透視や喉頭鏡、喉頭内視鏡で観察しながら実施する。

【胃管挿入後の初回投与】

提言4

胃管挿入後は重篤な合併症を回避するため、初回は日中に水（50～100mL程度）を投与する。

【院内体制・教育】

提言6

胃管挿入は重篤な合併症を起こしうる手技であるということを周知し、栄養状態や胃管の適応に関する定期的評価、胃管挿入に関する具体的な方法について、院内の取り決めを策定する。

*医療事故の再発防止に向けた提言第6号

「栄養剤投与目的に行われた胃管挿入に係る死亡事例の分析」,
2018年9月, 医療事故調査・支援センター（一般社団法人日本医療安全調査機構）
<https://www.medsafe.or.jp/uploads/uploads/files/teigen-06.pdf>

MET 光ガイドカテーテルシステム

仕様

本体	
外形寸法	幅 220mm × 高さ 198mm × 奥行 79mm
重量	834g
光源波長	850nm
受光部	CMOSセンサー
電源	DC4.8V
バッテリー稼働時間	連続使用で2時間*
光ガイドカテーテル	
長さ	1,993mm
直径	1.8mm
発光部	近赤外LED (850nm)

*本品に同梱している単三ニッケル水素電池の場合。但し、電池の消耗があるところの限りではありません。

カタログ番号	製品名	包装
GTPS-001	MET 光ガイドカテーテルシステム 本体	1台
GTPS-001S	MET 光スタイレット	5本

製品規格
一般的名称 : 経腸栄養チューブ挿入追跡装置
販売名 : MET 光ガイドカテーテルシステム
医療機器承認番号 : 30500BZX00063000
クラス分類 : II 管理医療機器

製造販売元 : 日本アッシュ株式会社
製造元 : 株式会社スタンレー宮城製作所
販売元 : カーディナルヘルス株式会社

Kangaroo™ Enteral Feeding Tube

ニュー エンテラル フィーディング チューブ

タイプ	カタログ番号	チューブ外径 (mm)	長さ (cm)	カラーコード
シングルポート	3373-5	1.7 (5Fr)	120	ブルー
	3373-7	2.3 (6.5Fr)		グリーン
	3373-8	2.7 (8Fr)		ブラウン
	3373-10	3.4 (10Fr)		オレンジ
	3373-12	4.1 (12Fr)		ピンク
シングルポート ショートタイプ	3373-5-S	1.7 (5Fr)	80	ブルー
	3373-7-S	2.3 (6.5Fr)		グリーン
	3373-8-S	2.7 (8Fr)		ブラウン
	3373-10-S	3.4 (10Fr)		オレンジ
	3373-12-S	4.1 (12Fr)		ピンク

包装 : 1本毎滅菌済 包装単位 : 10本/箱 再使用禁止

製品規格
一般的名称 : 食道経由経腸栄養用チューブ
販売名 : ニュー エンテラル フィーディング チューブ
医療機器認証番号 : 225AABZX00129000
特定保険医療材料名 : 栄養カテーテル 経鼻用 経腸栄養用
クラス分類 : II 管理医療機器

MET 光ガイドカテーテルシステムと
共に使用できるカタログ番号は
「3373-12」のみです。
(2025年9月時点)



製品情報サイトは
こちら



お問い合わせ先
カーディナルヘルス株式会社
Tel : 0120-917-205
cardinalhealth.jp